

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス ルピナス潟上			
○保護者評価実施期間	令和7年11月10日 ~ 令和7年12月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数)	17人
○従業者評価実施期間	令和7年11月26日 ~ 令和7年12月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月10日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の日々の状況や課題について、また、学校卒業後の次のステージも見据え、関係機関（学校、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所他）と連携を図り、共通理解と共通認識のもとで支援を行っている。	児童の細やかな変化等についても関係機関に連絡を取り、早期の対応を心がけている。	児童一人一人の変化等について、些細な細やかな部分も事業所内で情報共有に務め、関係機関と連携を図り早期に適切な支援を行っていく。
2	小学校1年生から高校3年生までの幅広い年齢層の他児との交流（関わり）が出来ている。	年齢の異なる他児と過ごすことにより、年下の児童は先輩の良い所を真似しながらいろいろな事を習得し、年上の児童は後輩の面倒を見ながら自分自身の行きを振り返ることが出来き、その中で職員が関わりのほど良いバランスを確認しながら支援している。	利用している児童の関わりにおいては、上手くいくことより思いどおりにならない事の方が多いので、その成長できるチャンスを職員がしっかりと捉えて適切な支援をしていく。
3	児童一人一人の状態並びに家庭の状況も把握し、毎日楽しく安定して過ごしていくよう心がけている。	子どもが楽しく安定して過ごしている事が家族の安心に繋がり、また家族の安定が子どもの安定に繋がると考えているので、保護者から様々な話を聞きながら解決すべき課題がある場合は関係機関と連携を図り対応している。	今後も児童並びに保護者からいろいろな事で相談しやすいと思われるよう、コミュニケーションを図っていく事に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害時他災害時に備え、定期的に避難その他必要な訓練（地域の消防署、警察署に依頼しての避難訓練、救急救命訓練、不審者対応訓練他）を行っているが、保護者の皆様への伝え方が弱く上手く伝わっていない。	様々要因で日程変更になった事があり、事後の報告（連絡帳を介し）になってしまっている。	年度初めに防災訓練計画（案）を開示（連絡）して、訓練終了後は消防署、警察署からの評価も含め訓練結果を開示（連絡）していく。
2	活動プログラムの内容が成長と共に変えるべき所を児童の安定を主眼にしていたため、活動内容が固定化している傾向にある。	特に学校を卒業して次のステージ（社会）に進む高校生には意識して「自立」の部分に取り組んでいるが、本人の意向を重視しているため活動内容に偏りが生じている。	活動内容と活動目的を提示し、児童の同意を得たうえでプログラムを構築していく。
3			